

# 市立小・中学校のこれから

近年、少子超高齢化が進み、社会が大きな転換期を迎えている中、市内の小・中学校における児童生徒数も年々減少しています。

こうした現状と、小規模な学校における教育上の課題などについてお知らせします。

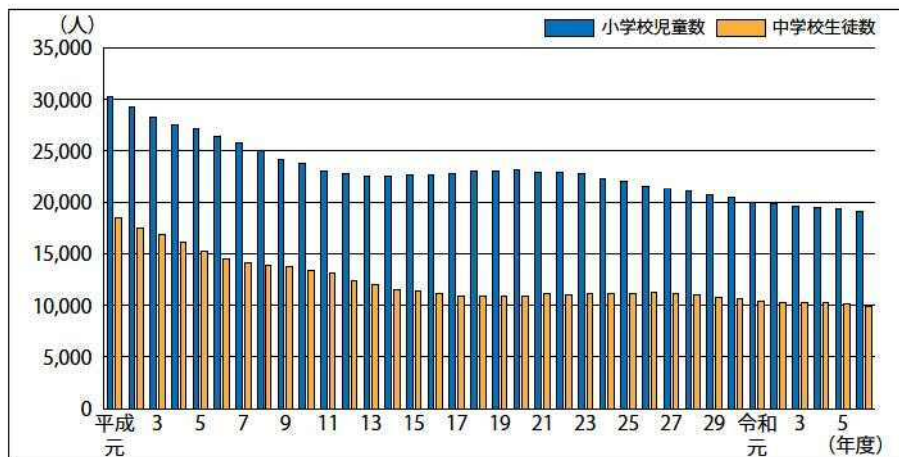
図教育総務課 ☎443-2130



## 児童生徒数の減少

平成元年から令和元年までに、小学校の児童数は約30,000人から約20,000人、中学校の生徒数は約18,500人から約10,000人となり、**児童生徒数全体で約18,500人(38%)減少**しています。

また、令和6年までに、さらに約**1,400人減少**する見込みです。



## 小・中学校の小規模化

学校教育法施行規則では、小・中学校は1校あたり12～18学級を標準(適正規模)としています。しかしながら、市の小・中学校の**5割以上が1校あたり11学級以下の小規模校**です。

### 《小学校》

	平成26年度	令和元年度	令和6年度(見込み)
小規模校(11学級以下)	34 (52%)	36 (55%)	38 (58%)
適正規模校(12～18学級)	20 (31%)	22 (34%)	18 (28%)
大規模校(19学級以上)	11 (17%)	7 (11%)	9 (14%)
学校数	65	65	65

### 《中学校》

	平成26年度	令和元年度	令和6年度(見込み)
小規模校(11学級以下)	13 (50%)	14 (54%)	13 (52%)
適正規模校(12～18学級)	8 (31%)	10 (38%)	8 (32%)
大規模校(19学級以上)	5 (19%)	2 (8%)	4 (16%)
学校数	26	26	25 <sup>[※]</sup>

[※] 令和4年度から、八尾中学校と杉原中学校が統合する予定です。

## 小規模校における教育の課題

小規模校は、一人一人の子どもに目が届くのできめ細かな指導ができる、学習や学校行事などで子どもたちの活躍の場が多いなどのよさがある一方で、次のような課題を抱えています。

- ・児童生徒数が少なくクラス替えがないため、多様な考えに触れる機会や、社会性や規範意識を身につける機会が得られにくい。
- ・同学年の児童、生徒数が少ない場合、音楽の合唱や体育の団体競技(サッカーやバスケットボールなど)が行いにくい。
- ・経験年数、専門性、男女比など、教員をバランスよく配置できない。
- ・複式学級となる場合、教員が複数学年分の指導準備を行うこととなり、各学年へのきめ細かい指導が行いにくい。
- ・中学校では9教科10科目すべての教科の教員がそろわず、一部の教員が専門以外の教科の授業を行わなくてはならない。
- ・開設できる部活動の数に制約が生まれ、生徒が希望する部活動を選択できない場合がある。 など

児童生徒数の減少に伴い、**学校の統廃合は将来的に避けて通れない大きな課題**です。

次代を担う子どもたちにとってよりよい教育環境となるよう、市教育委員会では各地域の自治振興会やPTAの会議などに出向き、現状の説明や意見交換を行うなど、地域・保護者・教育委員会が一体となって、地元の小・中学校のあり方について議論を深める環境づくりを行っていくこととしています。